

よさびの

2025

No.83

TAKE FREE

いきいき、暮らし続ける
朝日野会の介護サービスのかたち



特集

自分らしく暮らす

朝日野会の介護サービスのかたち

サンあさひの 施設長

わたなべ

みちあき

渡邊 道明



高齢者向け施設の増加 とその背景

私は2025年3月に入職し、5月より施設長としてサービス付き高齢者向け住宅「サンあさひの」に勤務しています。今年で65歳になりますが、医療法人朝日野会の職員としては新人です。銀行・関係会社にて43年間勤務し、65歳定年を機に同法人へ就職することになりました。お客様の資産形成や融資により地域経済や環境を守る仕事から、人の命を守る職場に転職し緊張した日々を過ごしております。

現在の介護施設の環境を確認しますと、高齢者向け施設は全国的に増加しています。その背景には、高齢化の進展や一人暮らしの高齢者の増加があります。

具体的には、内閣府2023年発表によると、日本の総人口に占める65歳以上の割合は、29.1%と約3人に1人が65歳以上の高齢者となっています。都道府県別にみますと熊本県は32.3%と全国平均を上回っている状況にあります。高齢者人口の増加に加え、65歳以上の一人暮らしの高齢者世帯も増加し、男女別では2020年男性15.0%、女性22.1%、2050年には男性26.1%、女性29.3%に増加すると予想されています。

親の高齢化により健康状態を心配している方の中には、遠隔地に居住しているケースも多く、安心して任せることができる施設を探す方法が分からない状況にあります。

さらに介護施設は、公的施設である特養や民間施設

である介護付有料老人ホーム等種類も多く、入居できる介護レベルも様々で各施設基準を理解し選択することは難しい状況です。

サービス付き高齢者 向け住宅とは

このような環境の中、当施設は2024年5月に開設し、お陰様で1周年を迎えることができました。略称「サ高住」の開設基準は、安否確認と生活相談サービスの提供が条件となっており、比較的異業種が参入しやすく厳しい競争環境の中にあります。

「サ高住」は、有料老人ホーム等とは違い、自由度が高くライフスタイルに合わせて暮らすことができる高齢者向けの賃貸住宅なのですが、入所を必要としている皆様に認識されていない状況にもあります。

次に、サービス付き高齢者向け住宅「サンあさひの」の強みと特徴を説明します。第一に、朝日野総合病院が運営している高齢者向け

住宅ならではの安心感が魅力です。

第二に、24時間365日ケアスタッフが常駐し、朝日野総合病院と連携しながらご入居の皆様の生活をサポートすることが出来ます。

第三に、栄養バランスの整った出来たての食事を施設内で提供します。

さらに、当施設は好立地にあります。北熊本駅前、施設前にバス停と、入居者様やご家族の皆様にとって他の施設と比べて交通の利便性が高い環境です。



「サンあさひの」 サービス提供の充実

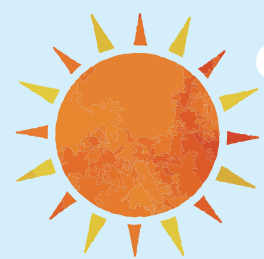
最後に、「サンあさひの」の名称と当施設最大の強み

に触れてみたいと思います。「サンあさひの」は、『燦々と朝日を受けて光り輝く野のように爽やかで、生命やエネルギーを与える太陽のように温かい施設でありたい』という願いが込められています。

そのような願いに加え、当施設最大の強みは施設内に3つの事業所を併設していることです。①ケアマネジャーが、要介護者のケアプラン作成やサービスを調整する「朝日野居宅介護支援センター」、②看護師が、病気や障害を持つ人に医療的支援や生活支援を提供する「朝日野訪問看護ステーション」、③ホームヘルパーが、身体的介護や生活援助サービスを提供する「朝日野訪問介護ステーション」です。ワンストップであらゆるサービスを提供することが出来ます。

入居者の皆様に安心安全な生活環境、質の高いケアプラン、看護・介護サービスを提供できる施設として、職員一同努力してまいります。引き続き皆様のご支援宜しくお願い申し上げます。





生活を支える 訪問ケア紹介



朝日野居宅介護支援センター
管理者 田中 恵理子

朝日野居宅介護支援センターは、2000年介護保険制度と同時に開設しました。地域が必要とする多種多様な介護サービスと同センターが連携し、介護度に合わせたプランを提案しています。介護支援専門員は、介護保険制度の中で中核的な役割を果たし、適切に出来る限り自立した生活が送れるようにサポートする専門職です。

同センターは、介護度の高い方、看取りの方、医療依存度の高い方を積極的に受け入れ主治医と連携し、地域の皆様に必要とされるセンターとして活動しています。



朝日野訪問リハビリ
作業療法士 リーダー 里 昇龍

当院の訪問リハビリでは、理学療法士と言語聴覚士が自宅を訪問し、身体機能の維持・改善や言語・嚥下訓練など、個人に合わせた専門的リハビリを提供します。

実際の生活環境に応じた動作指導や介助方法のアドバイスも行い、主治医やケアマネジャー等と連携して退院後も切れ目のない支援を実施しています。

ご本人・ご家族が安心して在宅生活を送れるよう、地域に根ざしたサポートを行います。不安やお困りごとがございましたら、お気軽にご相談ください。



朝日野訪問看護ステーション
センター長 原口 篤子

訪問看護のサービスは1996年夏、産声を上げました。以来当院の内外問わず先生方の指示を頂き、ご自宅で安心して療養ができるようお手伝いを続けています。

2008年に訪問看護ステーションとして独立、昨年は新設の「サン あさひの」内に事務所を移転致しました。約7割の利用者様が朝日野総合病院の医師を主治医としており、迅速に相談、指示受けができることを強みと考えています。ご希望の方には在宅看取りまで関わらせて頂いています。退院を前に不安のある方はご相談下さい。



朝日野訪問介護ステーション
管理者 高木 由美子

朝日野訪問介護ステーションは、「サン あさひの」1階に2024年8月に開設しました。利用者様の「自分でできること」を尊重し、自立支援と安心の両立を目指して日々活動しています。

朝日野総合病院と連携しながら、急な体調変化にも柔軟に対応することができます。

これからも「サンあさひの」を中心拠点として地域に根差した介護体制により、介護が必要になられたお一人お一人に寄り添った質の高いサービスを提供してまいります。



行きたい場所になるリハビリ ～通所での暮らし支援～



通所リハビリテーションセンター 管理者 森屋 大祐（理学療法士）

看護師が常駐している安心感 無理なく通所リハをスタートできたAさん

「退院する時はトイレに行くのも不安だったけど、今は大丈夫。やっぱり気合いが大事だね。」そんな言葉とともに、明るく笑ってくださったのが、当センターに通われているAさん（80代・男性）です。骨折をされ、朝日野総合病院に入院。退院後も血圧が不安定で、最初にお越しになった時はリクライニング車椅子をご利用でした。

ご家族は日中お仕事をされており、自宅での見守りが難しい状況でしたが、当センターは看護師が常駐し、体調変化にもすぐ対応できる体制ですので、ご本人にもご家族にも安心感を持てただけたのではないかと思います。送迎には福祉車両を使用することで、無理なく通所をスタートしていただけました。



「人との交流も大切な時間となるリハビリ」

そう語られたAさんの思いに応えたいと、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が連携し、個別リハビリを段階的に進めていきました。3ヶ月ごとの体力測定をベースに、無理なく継続できるリハビリプログラムを構成した結果、体調は徐々に安定し、現在では屋内で杖を使い、ご自身の足で移動できるようになっています。

リハビリだけでなく、ここでは人との交流も大切な時間です。Aさんは「同じテーブルの人たちと馬鹿話してるのが、一番楽しい」とよく話して下さいます。暮らす場所は違っても「また今日も一緒ですね」と自然に会話が弾む関係が生まれています。

元気になる場所であり続けたい

館内は明るく、穏やかな空気が流れています。無理なく参加できる活動を通じて、心と身体の両面から元気を取り戻せるような空間づくりを心がけています。送迎範囲はおおむね15分圏内。身体介助が必要な方でも、安心して一日を過ごしていただけるよう支援体制を整えています。

通所を始めたころは「お風呂に入るだけの場所かな」と思っていた方が、「また来るね」と笑顔で言う姿を見る度に、ここが安心できる居場所になっていることを実感します。

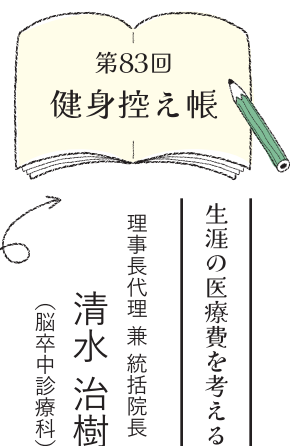
Aさんのように『できることが一つ増えるたびに、その人らしい生活を少しずつ取り戻していく』、そのプロセスを支えられることに、私は大きな意味を感じています。

これからも、ご利用者お一人おひとりの暮らしに寄り添いながら、「ここに来ると元気が出る」と思っただけの場所を、スタッフ一同で創っていききたいと思います。



「年寄りには潔く…」というような論調は、確かに、高齢者は疾患も多く、若い世代よりも医療費がかかるのは当たり前です。2023年度の国の医療費は47.3兆円。うち39.8%が75歳以上の後期高齢者が占めます。だからと言って、「70歳を過ぎれば終末期を覚悟せよ」はまだしも、

「年寄りには潔く…」というような論調は、確かに、高齢者は疾患も多く、若い世代よりも医療費がかかるのは当たり前です。2023年度の国の医療費は47.3兆円。うち39.8%が75歳以上の後期高齢者が占めます。だからと言って、「70歳を過ぎれば終末期を覚悟せよ」はまだしも、



広報誌リニューアルに伴い、タイトルを「健診センター通信」から「健身控え帳」と変更しました。身体を健やかに保つための情報として、これからも連載を続けます。是非、メモしてご活用ください！



先々の参議院選挙で、争点の一つが上がったのが高騰する医療費の問題でした。ある党は解決案の例として、「終末期の延命措置医療費は全額自費にすべき」（主に高齢者に対してでしょう）との考えを示し、一定の賛同を受けていたようです。ですが、これには事実誤認もあります。そもそも、疾患には急に発症するもの、慢性的にゆっくり進行するもの、緩解・再発を繰り返すものがあり、「終末期」の線引きが難しいものです。仮に期間で区切り、死亡前1カ月を「終末期」と定義するならば、年間医療費の3%にしかなりません。当然、の中には急に状態が悪くなり亡くなる方も含まれます。若年者も含まれます。人の死を正確に予測するのは困難ですし、「死の直前」に使われる費用が医療費全体を押し上げる可能性は、厚生労働省も否定しています。また、自費にするということは、「経済的に余裕がない方は、余命も短くなる」、「富める方は医療資源を自在に使っていい」と同義になります。

確かに、高齢者は疾患も多く、若い世代よりも医療費がかかるのは当たり前です。2023年度の国の医療費は47.3兆円。うち39.8%が75歳以上の後期高齢者が占めます。だからと言って、「70歳を過ぎれば終末期を覚悟せよ」はまだしも、

かたんなっせ体操

総合リハビリテーションセンター 理学療法士 森 賢二郎

寝たきり予防に！
かたんなっせ体操で、
ずっと元気に
自由な毎日を！

参考動画はこちら！
5分11秒～7分5秒の間です。

スクワット

①手すりなどに**両手**でつかまってまっすぐ立ちます。

②**4秒かけて**腰膝を曲げ、
4秒かけて腰膝を伸ばします。

10回
1セット

腰膝の角度は45°

片足立ち

①手すりなどに**片手**でつかまってまっすぐ立ちます。

②まっすぐ立ち、
片足を**すねの高さ**まで
上げ1分間キープします。

左右
1分間

つま先立ち

①手すりなどに**両手**でつかまってまっすぐ立ちます。

②**4秒かけて**かかとを上げ、
4秒かけて下ろします。

10回
1セット

暮らしに寄り添う 朝日野会

医療法人 朝日野会 朝日野総合病院

医療

通院・入院

30余科
外科、内科、整形外科など。
透析、歯科治療もできます。

- 健診センター
- メディカルフィットネス（サンフィット朝日野）
- 訪問・通所リハビリ

予防医療 生活支援

住まい

サン あさひの サービス付き高齢者向け住宅

60歳以上で自立、要支援～要介護の方までご入居いただけます。

～ サン あさひの内に併設 ～

- 訪問看護ステーション
- 居宅介護支援センター
- 訪問介護ステーション

看護支援 介護支援

ご利用者様

発行日／令和7年7月（初版）・令和8年9月（改訂版）

編集・発行／医療法人 朝日野会 朝日野総合病院 広報委員会



医療法人 朝日野会

朝日野総合病院

〒861-8072 熊本市北区室園町12番10号
TEL 096-344-3000 FAX 096-343-7570

